

さあ、しゅっぱつだよ！



しょうがく1ねんせい ぐみ ばん

なまえ

自分で書いた字が残ることは、将来の振り返りの際、多くのことを感じることができます。ひらがなの学習後、自分で名前を書かせましょう。

学校教育目標や育成したい資質・能力を踏まえ、1年生の目指す姿を配付前に教職員が記入しましょう。1年生がイメージできるような具体的な姿で示すことがポイントです。配付時には、教職員の思いを児童に説明しましょう。

どんな1ねんせいになりたいかな？ *どんな1ねんせいになりたいか！*

年度当初のため、字を書くことは難しいことが考えられます。「絵を描く」や「写真を貼る」といった工夫をしましょう。作成の際は、学級活動などで「どんな1年生になりたいか。」について、意見交流をすることでイメージを膨らませておいてから、絵を描かせることも考えられます。

1がっき

がんばったことやたのしかったことをかきましよう。

頑張ったこと、楽しかったことにあまりこだわらず、児童が書きたいことを尊重して書かせ、肯定的に評価しましょう。

1年生の1学期に書いた字が残っているということが、ここでは一番大切です。あまり欲張らず、振り返って気づきを書いたということを認め、励ます声掛けをしましょう。

せんせいからのメッセージ

2がっき

がんばったことやたのしかったことをかきましよう。

せんせいからのメッセージ

先生や家の人から児童の頑張りやできるようになったことなど、気付いたことを積極的に伝えることで、児童が自らのよさや可能性を見いだしたり、自己肯定感を高めたりすることにつながります。十分に振り返りが書けなかった児童に対しては、児童自身が自覚できなかったよさや可能性などをメッセージとして送ることで、将来、自分の成長を振り返ることができます。

()より

()より

()より

1ねんかんをおもいだしてかきましよう。

1ねんせいでがんばったことやたのしかったことをかきましよう。



えでかきましよう。

書くことが思い浮かばない場合、頑張ったこと、楽しかったことに加え、「1年生でできるようになったこと」等を記入することを児童に促しましょう。書くことが苦手な児童は、空欄が多くできてしまうこともあります。「〇行以上書きましよう。」といった形で指導するのではなく、児童自身がしっかり振り返ったということであれば、肯定的に評価するようにしましょう。

こんな2ねんせいになりたいな

えでかきましよう。



本シートの児童自身の振り返りも参考にさせながら、次年度の目指す姿をイメージさせましよう。「2年生の自分の姿を想像してみる」ということが大切です。学級活動等で意見交流することもよいアイデアです。

せんせいからのメッセージ

おうちのひとなどからのメッセージ

マスコットキャラクターのチーノです！「キャリア・ログ」にとうじょうして、みんなのがんばりをおうえんするね！



()より

()より

()より



なまえ

2年生にがんばってほしいこと
学校教育目標や育成したい資質・能力を踏まえ、2年生の目指す姿を配付前に教職員が記入しましょう。2年生がイメージできるような具体的な姿で示すことがポイントです。配付時には、教職員の思いを児童に説明しましょう。

こんな2年生になりたい！

今年度末の自己の目指す姿を児童自身に設定させます。「〇〇の場面で〇〇ができるようになる。」といった具体的な姿や態度で設定させてください。

1学き

1学きにがんばったことやたのしかったこと

書くことが苦手な児童には、頑張ったことや楽しかったことの原因や、できるようになったことを問いかけながら書かせることも考えられます。しかし、どうしても筆が進まない児童もいます。あまり文章の量にこだわらず、自己の生活を振り返っていることを評価する声掛けを心がけましょう。

2学き

2学きにがんばったことやたのしかったこと

先生からのメッセージ

先生からのメッセージ

先生や家の人から児童の頑張りやできるようになったことなど、気付いたことを積極的に伝えることで、児童が自らのよさや可能性を見いだしたり、自己肯定感を高めたりすることにつながります。十分に振り返りが書けなかった児童に対しては、児童自身が自覚できなかったよさや可能性などをメッセージとして送ることで、将来、自分の成長を振り返ることができます。

1年間をふりかえって書きましょう。



2年生で 一ばんたのしかったこととその理由

	えでかきましょう。
1年生のシートから発展し、「理由」を書くようにしています。自分が楽しかったことについて、しっかりと理由も含めて振り返ることができるように声掛けをしましょう。	

2年生で 一ばんがんばったことやできるようになったこと

	えでかきましょう。
「できるようになったこと」は、考えにくい児童もいます。「1年生のころと比べると・・・」や、「2学期と比べると・・・」のように、考えるヒントを与えるなどの工夫をしましょう。できるようになったことを考えることは、「自己認識」にもつながります。児童が書きやすいようなら箇条書きでも構いません。自己の成長を振り返っていることを大切にしましょう。	

3年生で がんばりたいこと

本シートの児童自身の振り返りも参考にさせながら、次年度の目指す姿をイメージさせましょう。「3年生の自分の姿を想像してみる」ということが大切です。学級活動等で意見交流することもよいアイデアです。

1年間をおえて、先生からのメッセージ

おうちの人などからのメッセージ

--	--



小学校 3年 ()組 ()番 名前()

学校教育目標や育成したい資質・能力を踏まえ、3年生の目指す姿を配付前に教職員が記入しましょう。3年生がイメージできるような具体的な姿で示すことがポイントです。配付時には、教職員の思いを児童に説明しましょう。

こんな3年生になりたい！

今年度末の自己の目指す姿を児童自身に設定させます。「〇〇の場面で〇〇ができるようになる。」といった具体的な姿や態度で設定させてください。

広しまけんの15さいの生とにみにつけておいてもらいたい力

〇自こをにんしきする力

自分は

〇自分の

〇ひょうげん

自分自

のつかい方

3年生から「広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」を記載しています。意図は、小学校段階から15歳という義務教育終了時の自分の姿を意識させるためです。おそらく、本シートを見る時が児童にとっては最初の出会いとなります。ぜひ、児童への配付時には当欄の記載について触れ、今後、どのような力を伸ばしていく必要があるのかについて説明しましょう。

できる力のこと

できめることが

うじて、ことば

ことができる力のことです。

1学き

1学きにがんばりたいこと

「がんばりたいこと」の欄は、「こんな3年生になりたい」を踏まえ、具体的な行動目標を決める箇所です。なるべく、学期末に振り返ることの容易な、具体的な目標になるように声掛けをしましょう。



1学きの自分をふりかえりましょう

(学しゅうめん)

3年生からは、学習面等の視点を踏まえ、分析的に振り返るようになっていきます。

これまでの授業や学校行事の記録、上記の「がんばりたいこと」などを基に記入させます。「できた・できていない」だけでなく、できるようになるために行動した自分にも気付かせることが何よりも大切です。できるようになっていなくても、そこに向けて力を注いだことがあることを伝え、「〇〇を続けた」など児童の努力を自覚できるようにし、頑張り続けていることとして、肯定的に捉えられるよう支援をしましょう。

視点については変更することはできますが、高学年や中学校、高等学校での記述と比較ができるような項目を御検討ください。

(学校行じ)

2学き

2学きにがんばりたいこと

前の学期と内容が同じになる児童もいます。頑張り続けていることとして認め、無理に変更させることがないようにしましょう。



2学きの自分をふりかえりましょう

(学しゅうめん)

(生活: そうじの時間, かかり活どうなど)

(お家や地いきで)

(学校行じ)

3学き

3学きにがんばりたいこと

(学しゅうめん)

(生活: そうじの時間, かかり活どうなど)

(お家や地いきで)

(学校行じ)

1年間をふりかえって

3年生で一番楽しかったこととその理由

3年生でできるようになったこと

「できるようになったこと」は、考えにくい児童もいます。「2年生のころと比べると・・・」や、「2学期と比べると・・・」のように、考えるヒントを与えるなどの工夫をしましょう。

できるようになったことを考えることは、「自己認識」にもつながります。児童が書きやすいようなら箇条書きでも構いません。自己の成長を振り返っていることを大切にしましょう。

4年生でがんばりたいこと

本シートの児童自身の振り返りも参考にさせながら、次年度の目指す姿をイメージさせましょう。

「4年生の自分の姿を想像してみる」ということが大切です。学級活動等で意見交流することもよいアイデアです。

先生や家の人から児童の頑張りやできるようになったことなど、気付いたことを積極的に伝えることで、児童が自らのよさや可能性を見いだしたり、自己肯定感を高めたりすることにつながります。十分に振り返りが書けなかった児童に対しては、児童自身が自覚できなかったよさや可能性などをメッセージとして送ることで、将来、自分の成長を振り返ることができます。

小学校 4年()組 ()番 名前()

学校教育目標や育成したい資質・能力を踏まえ、4年生の目指す姿を配付前に教職員が記入しましょう。4年生がイメージできるような具体的な姿で示すことがポイントです。配付時には、教職員の思いを児童に説明しましょう。

4年生が終わったときこんな自分になりたい

今年度末の自己の目指す姿を児童自身に設定させます。「〇〇の場面で〇〇ができるようになる。」といった具体的な姿や態度で設定させてください。



広島県の15歳の生とに身につけておいてもらいたい力

○自己をにんきする力

自分は何が

す。

○自分の人

自分の夢や

ける力のこと

○表げんする

自分自身の

や表げんの仕方などをくふつしなからつたえることかできる力のことです。

「広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」を記載しています。意図は、小学校段階から15歳という義務教育終了時の自分の姿を意識させるためです。おそらく、読んだだけでは理解できない箇所もあると思います。ぜひ、児童への配付時には当欄の記載について触れ、今後、どのような力を伸ばしていく必要があるのかについて説明しましょう。

力のことで

ることがで

葉の使い方

1学期

こんな自分になりたい

今年度末の自己の目指す姿を踏まえて、自らの目指す姿を設定させてください。目指す姿が書けない児童は、頑張ることを書かせてもよいです。



1学期の自分をふり返りましょう

(学習面)

これまでの授業や学校行事の記録、上記の「なりたい」姿などを基に記入させます。「できた・できていない」だけでなく、できるようになるために行動した自分にも気付かせることが何よりも大切です。できるようになっていなくても、そこに向けて力を注いだことがあることを伝え、「〇〇を続けた」など児童の努力を自覚できるようにし、頑張りを認めることとして、肯定的に捉えることができるよう支援をしましょう。

()は、児童に設定させてください。今学期頑張ったことなどを考え、自由に設定して構いません。学期ごとに違うことも考えられます。自分で設定することが難しい児童の場合、教職員が例示し、選択させるという方法も考えられます。

2学期

こんな自分になりたい

前の学期と内容が同じになる児童もいます。頑張りを認めることとして認め、無理に変更させることがないようにしましょう。



2学期の自分をふり返りましょう

(学習面)

(生活: そうじの時間, 係活動, クラブ活動, 学校行事など)

(家や地いき)

()

3学期

こんな自分になりたい

3学期の自分をふり返りましょう

(学習面)

(生活: そうじの時間, 係活動, クラブ活動, 学校行事など)

(家や地いき)

()

1年間をふり返って

この1年でせい長したと思うこと

どんな些細なことでもよいです。自分の成長に気付かせてください。これまでの学年と比較し、自分の成長を振り返ることで、この1年間の成長を実感させることも考えられます。

自分のよいところや、とく意なこと

友達同士で、お互いに頑張っていたところや良かったところを語り合う活動を取り入れることも考えられます。

こんな5年生, 高学年になりたい

5年生で新たに始まることや、なりたい5年生像などについて、話し合うことなどにより、新しい学年に向かって、希望をもたせるようにします。学級活動等で意見交流することも良いアイデアです。

先生や家の人から児童の頑張りができるようになったことなど、気付いたことを積極的に伝えることで、児童が自らのよさや可能性を見いだしたり、自己肯定感を高めたりすることにつながります。十分に振り返りが書けなかった児童に対しては、児童自身が自覚できなかったよさや可能性などをメッセージとして送ることで、将来、自分の成長を振り返ることができます。

小学校 5年()組 ()番 名前()

学校教育目標や育成したい資質・能力を踏まえ、5年生の目指す姿を配付前に教職員が記入しましょう。5年生がイメージできるような具体的な姿で示すことがポイントです。配付時には、教職員の思いを児童に説明しましょう。

5年生が終わったときこんな自分になりたい

今年度末の自己の目指す姿を児童自身に設定させます。「〇〇の場面で〇〇ができるようになる。」といった具体的な姿や態度で設定させてください。



広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力

○自己を認識する力

自分
す。
○自分
自分の
こと
○表現
自分の
表現の

「広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」を記載しています。意図は、小学校段階から15歳という義務教育終了時の自分の姿を意識させるためです。おそらく、読んだだけでは理解できない箇所もあると思います。ぜひ、児童への配付時には当欄の記載について触れ、今後、どのような力を伸ばしていく必要があるのかについて説明しましょう。

できる力のことで
ることができる力
言葉の使い方や

力なことを入しなから伝えることができる力のことで。

1学期

こんな自分になりたい

今年度末の自己の目指す姿を踏まえて、自らの目指す姿を設定させてください。目指す姿が書けない児童は、頑張ることを書かせてもよいです。

2学期

こんな自分になりたい

前の学期と内容が同じになる児童もいます。頑張り続けていることとして認め、無理に変更させることがないようにしましょう。

3学期

こんな自分になりたい

1年間をふり返って

高学年としてがんばったことやみんなのためにしたこと、成長したと思うこと

どんな些細なことでもよいです。自分の成長を気付かせてください。学級活動等で、他者からの評価をもらうことも有効です。これまでの学年と比較し、自分の成長を振り返ることで、この1年間の成長を実感させることも考えられます。

自分のよいところや、とく意なこと

友達同士で、お互いに頑張っていたところやよかったところを語り合う活動を取り入れることも考えられます。

こんな6年生になりたい

5年生での経験を踏まえ、これからの抱負を考えたり、6年生の学校生活や学校行事などをイメージさせ、希望をもたせるようにします。学級活動等で意見交流することもよいアイデアです。

なりたい自分にどれだけ近づけたか、ふり返りましょう
(学習面)

これまでの授業や学校行事の記録、上記の「なりたい」姿などを基に記入させます。「なりたい自分にどれだけ近づけたか」という視点が難しい児童は、第4学年のシートと同様に、学期の振り返りを考えるように、と声掛けをしましょう。「できた・できていない」だけでなく、できるようになるために行動した自分にも気付かせることが何よりも大切です。できるようになっていなくても、そこに向けて力を注いだことがあることを伝え、「〇〇を続けた」など児童の努力を自覚できるようにし、頑張り続けていることとして、肯定的に捉えられるよう支援をしましょう。

()は、児童に設定させてください。今学期頑張ったことなどを考え、自由に設定して構いません。学期ごとに違うことも考えられます。自分で設定することが難しい児童の場合、教職員が例示し、選択させるという方法も考えられます。

なりたい自分にどれだけ近づけたか、ふり返りましょう
(学習面)

(生活: そうじの時間, 係活動, クラブ活動, 学校行事など)

(家庭や地いき)

()

なりたい自分にどれだけ近づけたか、ふり返りましょう
(学習面)

(生活: そうじの時間, 係活動, クラブ活動, 学校行事など)

(家庭や地いき)

()

先生や家の人から児童の頑張りやできるようになったことなど、気付いたことを積極的に伝えることで、児童が自らのよさや可能性を見いだしたり、自己肯定感を高めたりすることにつながります。十分に振り返りが書けなかった児童に対しては、児童自身が自覚できなかったよさや可能性などをメッセージとして送ることで、将来、自分の成長を振り返ることができます。

小学校 6年()組 ()番 名前()

学校教育目標や育成したい資質・能力を踏まえ、6年生の目指す姿を配付前に教職員が記入しましょう。6年生がイメージできるような具体的な姿で示すことがポイントです。配付時には、教職員の思いを児童に説明しましょう。

卒業するときにはこんな自分になりたい

今年度末の自己の目指す姿を児童自身に設定させます。「〇〇の場面で〇〇ができるようになる。」といった具体的な姿や態度で設定させてください。



広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力

○自己を認識する力

自分は何かをすることができる力

○自分の考えや感情を表現する力

○表現する力

○表現する力

「広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」を記載しています。意図は、小学校段階から15歳という義務教育終了時の自分の姿を意識させるためです。おそらく、読んだだけでは理解できない箇所もあると思います。ぜひ、児童への配付時には当欄の記載について触れ、今後、どのような力を伸ばしていく必要があるのかについて説明しましょう。

力のこと

ことができる力

業の使い方や

1学期

こんな自分になりたい

今年度末の自己の目指す姿を踏まえて、自らの目指す姿を設定させてください。目指す姿が書けない児童は、頑張ることを書かせてもよいです。

2学期

こんな自分になりたい

前の学期と内容が同じになる児童もいます。頑張り続けていることとして認め、無理に変更させることがないようにしましょう。

3学期

こんな自分になりたい

1年間をふり返って、最高学年としてがんばったことやみんなのためにしたこと、成長したと思うこと

どんな些細なことでもよいです。自分の成長を気付かせてください。学級活動等で、他者からの評価をもらうことも有効です。これまでの学年と比較し、自分の成長を振り返ることで、この1年間の成長を実感させることも考えられます。

なりたい自分にどれだけ近づけたか、ふり返りましょう (学習面)

これまでの授業や学校行事の記録、上記の「なりたい」姿などを基に記入させます。「なりたい自分にどれだけ近づけたか」という視点が難しい児童は、第4学年のシートと同様に、学期の振り返りを考えるように、と声掛けをしましょう。「できた・できていない」だけでなく、できるようになるために行動した自分にも気付かせることが何よりも大切です。できるようになっていなくても、そこに向けて力を注いだことがあることを伝え、「〇〇を続けた」など児童の努力を自覚できるようにし、頑張り続けていることとして、肯定的に捉えられるよう支援をしましょう。

()は、児童に設定させてください。今学期頑張ったことなどを考え、自由に設定して構いません。学期ごとに違うことも考えられます。自分で設定することが難しい児童の場合、教職員が例示し、選択させるという方法も考えられます。

なりたい自分にどれだけ近づけたか、ふり返りましょう (学習面)

(生活: そうじの時間、係活動、クラブ活動、学校行事など)

(家庭や地いき)

()

なりたい自分にどれだけ近づけたか、ふり返りましょう (学習面)

(生活: そうじの時間、係活動、クラブ活動、学校行事など)

(家庭や地いき)

()

小学校生活をふり返って (成長したと感じたことやそのきっかけ)

「キャリア・ログ」やその他の資料で振り返ることで、成長を実感させるようにします。

しょう来は、こんな大人になりたい

頑張ったことや自分のよいところを振り返った上で、将来なりたい自分について、じっくり考えさせることが大切です。また、なりたい大人像や就きたい仕事を考え、それと日々の生活を結び付けることも重要です。児童の記述が不十分と感じた場合、記述内容を認めた上で「そう思った理由やきっかけ」を考えさせ、記述させましょう。

先生や家の人から児童の頑張りやできるようになったことなど、気付いたことを積極的に伝えることで、児童が自らのよさや可能性を見いだしたり、自己肯定感を高めたりすることにつながります。十分に振り返りが書けなかった児童に対しては、児童自身が自覚できなかったよさや可能性などをメッセージとして送ることで、将来、自分の成長を振り返ることができます。